

第2期加東市教育大綱における各施策の取組状況について

資料1

基本方針/基本的方向	令和3年度の取組実績	担当課
<p>I 未来を切り拓く子どもを育む 小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～</p>		<p>担当課</p>
<p>①「確かな学力」の育成</p>	<p>小中一貫教育教科カリキュラムに基づき、出前授業を行う中で、小学校と中学校の系統性・連続性を意識した授業研究が深まり、授業力の向上につながった。 各校での課題を踏まえた授業改善や校内授業検討会を通じて教員の指導力向上を図った。 「わくわく英語村」に延べ104名の中学生が参加し、市内ALTを中心とした講師と英語活動を通してコミュニケーション能力を育むことができた。 一人1台パソコンの授業支援ソフトや学習アプリを使うことで、多種多様な意見交流を行う協働学習、主体的に予習復習に臨む自主学習、プログラミング的思考を育むプログラミング教育を実施し、情報教育の充実が図れた。</p>	<p>学校教育課 小中一貫教育推進室</p>
<p>②夢や志を持ち挑戦する力の育成</p>	<p>キャリアパスポートを活用することで、児童生徒自身が自分の変容や成長を自己評価できただけでなく、家族、友達、社会とのつながりを、以前より意識できるようになった。また、トライやる・ウィークを通して地域とのつながりを再認識し、自分は地域に何ができるかを考えることができた。 ふるさと学習「かとう学」副読本を様々な教科の授業で活用することで、教科書の内容とふるさと「かとう」とのつながりを意識することができ、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活用した教育活動につながった。また、地域とのつながりを持つことで、ふるさとについての新しい発見や愛着の醸成につながった。 東条学園小中学校では、第Iステージのリーダーである4年生に自主性やリーダーシップの向上が見られ、第IIステージの5・6年生にとっては、後期課程生徒の姿を間近に見ることで、目標となる生徒像を具体的に意識することができた。</p>	<p>学校教育課 小中一貫教育推進室</p>
<p>③「豊かな心」の育成</p>	<p>環境体験学習や自然学校、わくわくオーケストラを通して、本物に触れることで、感動する心、生命に対する畏敬の念、共に生きる心を育み、豊かな情操を培うことができた。 トライやる・ウィークのクリーン活動や花植え活動などを通して、地域を大切にする気持ちを育むとともに、地域の保全活動をしている方々に改めて感謝できた。地域とのつながりを再認識し、自分は地域に何ができるかを考えることができた。 人権教育講演会実施後のアンケートから、「決めつけた見方をせず、差別しない」等、児童生徒の考え方の変容が見られた。 震災等を通じた被災地の助け合い活動などを紹介して、共生の心を育むことができた。</p>	<p>学校教育課</p>
<p>④「健やかな体」の育成</p>	<p>「加東市部活動指導方針」に基づく適切な部活動の実施により、生徒に負担なく身体を動かす楽しさや心地よさを実感させることができた。部活動指導員を配置することで、生徒の多様なニーズに応えるとともに、生徒に専門的な指導を行うことができた。 感染症予防について指導することで、日々の生活から予防対策を実践する力を身に付けさせることができた。 「かとう夢プラン～楽しみのある学校給食特別メニュー」に対する子どもたちのアンケートから、「地元の味を色々楽しめてよかった」と、取組が浸透しており、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から黙食という給食環境の中ではあるが、食の楽しさを提供することができた。</p>	<p>学校教育課 学校給食センター</p>
<p>⑤インクルーシブ教育の充実</p>	<p>多職種の相談日を設けることで、さまざまな相談に対応するとともに、幅広い年齢層への対応を行い、支援の必要な方がその人らしく生活できるようサポートすることができた。 個別療育や集団療育により、個々の力を伸ばし、良好な人間関係を築くことができるよう支援することができた。また、サポートファイルを活用し、家庭と関係機関が情報を共有し、一貫した支援を行い、切れ目ない支援を行うことができた。</p>	<p>発達サポートセンター</p>

基本方針/基本的方向	令和3年度の実績	担当課
I 未来を切り拓く子どもを育む 小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にされた教育の充実～	令和3年度の実績	担当課
⑥幼児教育の充実	土曜保育を一か所で実施することにより、職員を効率的に配置することができ、教育・保育の提供体制の推進につながった。 「保育士等キャリアアップ研修」を実施することで、教育・保育の質の向上が図れた。（参加者310人） 幼児期人権教育親子セミナーに参加した親子27組へのアンケートによる満足度は92%で、親子で絶対人権感覚を培った。 指導者養成セミナーの参加者（8人）のうち、7人（実践園数 3園）が「人権啓発プログラム」を実践し、「やさしさ」や「思いやり」の心を育んだ。	こども教育課

基本方針/基本的方向	令和3年度の実績	担当課
II 子どもの学びを支える教育環境の整備	令和3年度の実績	担当課
①学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	出前授業の回数が増え、小中学校双方の教員の小中一貫教育への意識が高くなるとともに、事後研修を小中合同で行うことで、課題と成果を明確にし、系統性のある授業づくりに向けた協議ができた。 主幹教諭等のミドルリーダー研修が校内で定着し、教職員の資質向上を図ることができた。 学校生活実態把握調査では、いじめの積極的な認知に努めた結果、昨年度に比べて、いじめの認知件数は84件増加し、早期に対応することができた。また、児童生徒会が中心となったいじめ防止活動にも取り組み、児童生徒自身がいじめについて深く考えることができた。	学校教育課
②家庭・地域の力を生かした教育の充実	学校教育課に寄せられる保護者等からの悩みを傾聴し、学校と連携することで、具体的な対策を講じることができ、悩みの早期解消が図れた。 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら児童館事業を実施し、子育て中の親子の相互交流や子育ての不安・悩みの相談を行うとともに、親として成長するための学びの機会を提供し、子育ての不安感、負担感を軽減することができた。 子育て応援ネット推進連絡会の講演会においては、地域ぐるみで子育てする必要性を会員相互で共有することができた。また、地域子ども教室では、多様な年齢、地域の方と幅広く関わることで、人間関係、ルール・マナー、仲間づくり等の術を学ぶことができた。 学校運営協議会では、子どもの姿をもとに目指す方向性を熟議することで、地域としてどのような関わりができるかを共有し、具体的な取組ができた。また、東条地域に地域学校協働本部を設置し、学校と地域が目指す子どもの姿を共有し、地域全体が地域とともにある学校を目指す土台ができた。	学校教育課 小中一貫教育推進室 こども教育課 生涯学習課

基本方針/基本的方向	令和3年度の取組実績	担当課
II 子どもの学びを支える教育環境の整備		担当課
③学校施設の整備と就学支援	<p>東条地域小中一貫校（東条学園小中学校）は、12月に竣工し三学期から新しい学び舎での学園生活がスタートした。社地域小中一貫校は、基本設計の検討結果から開校時期を1年延期とした。また、土壌汚染対策法との調整からカセ池造成工事に遅延が生じたが、関連する社中学校施設解体工事の工程を見直し、令和4年度に行う本体工事（増改築工事）に影響が及ばないように工事調整を行った。社地域開校準備委員会で愛称の選定を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から徒歩通学路検討の会議が開催できず、予定する協議項目に遅延が生じた。閉校となった東条地域の小学校施設について、地域等との協議を踏まえ、旧東条東小学校はコミュニティ機能を備えた複合施設に、旧東条西小学校は体育館をコミュニティ施設として活用することとした。学習機会を保障する就学援助事業においては、対象経費にオンライン通信費を新たに追加し、就学に必要な費用の一部を援助することができた。</p> <p>多文化共生サポーターを学校へ派遣し、外国人児童生徒と教員や児童生徒とのコミュニケーションの円滑化や生活適応、学習支援、心の安定を図ることができた。また、こども日本語教室を3小中学校で開校し、外国人児童生徒が楽しんで日本語に親しむことができ、日本語を使う機会が増えた。</p>	小中一貫教育推進室 教育総務課 学校教育課

基本方針/基本的方向	令和3年度の取組実績	担当課
III 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進		担当課
①多様な学習機会の充実	<p>高齢者大学において、少人数制のスキルアップ講座を開催し、学生のニーズに応えるとともに新たな学生の確保につなげた。成人学習事業として実施するインドヨガ体験教室については、自主的に活動を継続する動きに対し支援をした結果、令和4年度からインドヨガサークルが発足することとなった。</p> <p>また、公民館等の登録団体の活動を公民館まつりなどで市民に周知し、団体及び地域とのつながりを深めることができた。</p> <p>生涯学習サポーター倶楽部について、公民館の利用者や公民館サークルの登録団体等を中心に制度等の説明に努めた結果、新たに5名、5団体の登録があり、地域づくりの基盤がより充実した。</p>	生涯学習課
②人権教育・啓発の推進	<p>コロナ禍であったが、市ケーブルテレビとYouTubeを活用した動画配信による講演会を開催したところ、比較的若い年代の視聴につながり、学習機会の充実を図ることができた。</p> <p>また、「人権啓発DVDライブラリー」の活用や動画視聴、資料配布など複数の学習方法を提案し、多くの地区で住民学習会に取り組んでいただき（96地区中78地区）、人権学習を推進することができた。</p> <p>事業所を対象とした人権研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2回（うち1回は動画配信）のみの実施となったが、ダイバーシティとハラスメント及び心身の健康をテーマにした研修の実施により、人権を尊重した明るい職場づくりについての認識を深めることができた。</p>	人権協働課

基本方針/基本的方向	令和3年度の実績	担当課
Ⅲ 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進		
③文化芸術の振興	<p>公民館、コミュニティセンター及び文化会館の使用にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、多種多様な文化芸術の発表や鑑賞の機会を提供することができ、芸術文化に対する意識の向上を図ることができた。</p> <p>日頃の成果の発表や、加東市の文化の育成を目指すために、加東市文化祭（サークル作品展及び子ども美術作品展）と加東市文化連盟祭を同時に開催し、交流を深めるとともに文化の育成が図れた。</p> <p>加東市文化連盟は、文化芸術分野において、自己の研鑽や生きがいづくり、コミュニティの増進等を目的とするサークル活動を支援し、市内の文化活動の受け皿としての役割を果たすことができた。加東市美術協会の専門的な知見により、「加東市美術協会展」を通じ、質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、市民（来場者）の芸術文化に対する意識の向上に貢献した。</p>	生涯学習課
④文化財の保護と活用・継承	<p>中東条地域に多数残る所蔵品や寺宝を調査し、鎌倉時代からの地域文化や寺社と集落の関わりを知る手掛かりを得ることができた。また、社地区に所在する集落遺跡（社・大塚遺跡）の発掘調査により、弥生時代の方形周溝墓や堅穴建物などの珍しい遺構を発見し、出土した土器からは、室町時代までにかけての人々の営みが窺い知れる重要な資料が得られた。</p> <p>展示会等の広報や普及啓発など文化財に関する情報発信を行うとともに、常設展示の開始により、近隣に所在する文化施設の繋がりが増し、幅広く文化に触れる流れができた。</p> <p>加古川流域滝野歴史民俗資料館や三草藩武家屋敷旧尾崎家においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から観覧制限を設けたことで入館者数は伸び悩んだが、公開方法や施設環境を充実させたことにより、来館者の満足度向上につながった。</p>	生涯学習課
⑤生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	<p>体育協会加盟18団体、スポーツ少年団22加盟団体、体育施設公益活動登録団体65団体に対し、スポーツに対する取組を支援し、継続した活動につなげた。</p> <p>多世代交流の機会となるハイキングについては、参加した親子の交流や大会に参加した者同士の交流があり、健康増進やコミュニティづくりに寄与することができた。</p> <p>スポーツ推進委員主導により、ふれあい球技大会・ペタンク大会やふれあいハイキング等を開催するとともに、各事業を通じて競技ルール確認等技能向上を図ることができた。</p> <p>一方、地域の指導者の育成についてはコロナ禍の影響もあり、社会体育指導者の1名増にとどまった。</p>	生涯学習課
⑥社会教育施設及び社会体育施設の効率的な管理・運営	<p>社会教育施設の長寿命化計画を策定し、予防保全型の改修による館の維持管理を計画的に行い、将来的な財政負担の縮減及び予算の平準化を図ることができた。また、東条グラウンドの用地を取得し、借地を解消した。</p> <p>社会体育施設について、指定管理者制度の調査・研究を通じて導入のメリットやデメリットの情報を収集し、導入の可否を判断する材料の一つが整った。</p>	生涯学習課
⑦図書館サービスの充実	<p>予約及びリクエストの件数は、令和元年度より39.7%の増加、貸出冊数は、令和元年度より15%増加し、市民が読書に親しむ機会を提供することができた。また、学校のカリキュラムに沿った図書を購入し、市民に提供できた。</p> <p>コロナ禍による在宅時間が増えた影響もあるが、「おはなし会」などの読書活動推進事業や学校、健康課、人権協働課と連携した事業を実施することにより、貸出密度が12.9冊（昨年度末10.6冊）となり、図書館利用を推進することができた。</p>	中央図書館